

# 森と共に生きるまち宍粟の

# みどりじまん新聞



Vol. 15

令和6年5月号



バックナンバーはこちら

## 木育 過去ニュース

2023年7月  
木育おもちゃ広場&木育ワークショップ実施



## 森を守る林業従事者

研究者

阿江 真吾

私は、将来自然に関係する仕事に就きたいと考えており、その中で林業という職業に興味を持ち兵庫県立森林大学校に入学しました。入学してからこれまで授業や実習に励む中で、以前はぼんやりとしかわかっていなかった森林の持つ様々な機能や林業従事者の必要性、森を守るためにできることなどが徐々にわかってきました。

兵庫県立森林大学校では、林業従事者になるための技術や実習だけでなく、山や森の成り立ちが学べる森林生態学、植生や樹木の性質を学べる樹木学など、森林の専門家になるために必要な授業が多くあります。そこで、私がこれまでの授業で学んだ森林の機能などについて紹介したいと思います。

## ●日本の森林資源と林業の現状

林野庁の資料によると、日本は世界有数の森林大国であり、その森林面積は国土の3分の2にあたる2500万haを占めています。木材や燃料、製紙など様々な資源となる森林資源は、人工林を中心に蓄積が毎年

7千万<sup>3</sup>m増加し、現在は52億<sup>3</sup>mにもなっており、資源として利用できるにもかかわらず、放置されている森林が多く存在します。現在の人工林の半数以上が主伐期（収穫適齢期）を迎え、資源を有効活用すると同時に計画的に再造成することが必要な段階がきています。

## ●森林の持つ多面的機能とは

森林は、国土の保全、水資源の涵養（蓄え、育み、守っている働き）、地球温暖化の防止、生態系の保全、木材等の林産物供給などの様々な機能を有しています。その機能を通じて我々国民の生活を豊かなものにするこ

森林の多面的機能は、一部の貨幣評価できるものだけでも年間70兆円

<p>○土砂災害防止/土壌保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表面侵食防止【28兆2,565億円】</li> <li>・表層崩壊防止【8兆4,421億円】等</li> </ul>	<p>○水源涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水緩和【6兆4,686億円】</li> <li>・水資源貯留【8兆7,407億円】</li> <li>・水質浄化【14兆6,361億円】等</li> </ul>
<p>○保健・レクリエーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保養【2兆2,546億円】</li> <li>・行楽、スポーツ、療養</li> </ul>	<p>○地球環境保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二酸化炭素吸収【1兆2,391億円】</li> <li>・化石燃料代替エネルギー【2,261億円】</li> <li>・地球の気候の安定</li> </ul>
<p>○物質生産</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木材（建築材、燃料材等）</li> <li>・食料（きのこ、山菜等）等</li> </ul>	<p>○生物多様性保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子保全</li> <li>・生物種保全</li> <li>・生態系保全</li> </ul>
<p>○快適環境形成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気候緩和</li> <li>・大気浄化</li> <li>・快適生活環境形成</li> </ul>	<p>○文化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・景観・風致</li> <li>・学習・教育</li> <li>・芸術</li> <li>・宗教・祭礼</li> <li>・伝統文化</li> <li>・地域の多様性維持</li> </ul>

【表1】

出典：林野庁「森林・林業・木材産業の現状と課題」

## ●林業従事者の必要性

適切な森林管理が行われることで、私たちは生活にその恩恵を受けることができます。しかし、林業従事者がいなくなれば、森林は森林としての機能を失い、私たちの生活は立ち行かなくなるため、欠かすことのできない存在です。そんな中、日本の林業は、高齢化や新たな担い手不足（表2）、国産木材の利用数が伸びないことから森林の管理が難しくなっており、その結果、適切な間伐や山の管理が行き届かず荒れてしまった森林も少なくありません。

注1：高齢化率とは、65歳以上の従事者の割合  
注2：若年者率とは、35歳未満の従事者の割合

【表2】

出典：総務省「国勢調査」



## 「みどりじまん新聞」は

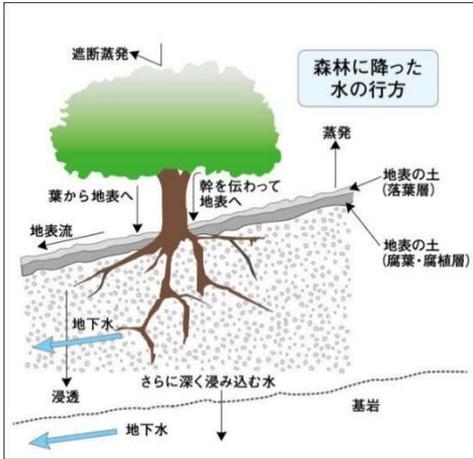
“木育”の視点を持って「森と共に生きるまち「しそう」」が誇る“みどり”の魅力を発信し、森や木に関心をもってもらうことを目的としています。発行にあたっては、「兵庫県立森林大学校」の学生が執筆し、学校での学びを生かして人と木や森林との関わりを伝えてもらいます。

## ●異常気象や災害

森林には、水源涵養機能（地下にしみこみ溜められた雨水を徐々に川や湖、沼などに流し込む機能）（表3）があります。森林を流れる河川の水が大雨でも急には増えず、雨の後も流れ続けるのは、森林に降った雨がすべて同時に河川に流れ込むのではなく、様々な経路を通り、それぞれ異なる時間経過で河川に流れ込んでいることを示します。そのおかげで洪水を和らげることができ、土砂崩落や流出災害を防止しています。また、適切に管理された森林には、木々の根がしっかりと網目状に張り巡らされ、その力で山地の斜面の表面は保護され安定しています。

近年の異常気象に伴う土砂災害の多くは、過伐採によるものではなく人工林の放置によるものが原因とされており、災害を少しでも減らすためには、人工林の管理の徹底が必要です。これらのことから、林業は社会的に見ても非常に重要な役割を持つ産業であることがわかります。

【表3】  
出典：林野庁「森林・林業白書」



## ●これからの林業とはどうあるべきか

私が宍粟市に来てからこれまで、自然の豊かさに気づかされる出会いが多くありました。国の天然記念物であるオオサンショウウオ（写真1）をはじめ数多くの両生類（写真2）や昆虫類を観察することができました。トンボは、幼虫であるヤゴの期間は水中で暮らしますが、この期間は非常に水質に敏感で水質悪化に極端に弱い生物です。



（写真1）オオサンショウウオ



（写真2）シュレーゲルアオガエル

森林大学校周辺では、河川に依存した産卵形態を持つオジロサナエのヤゴ（写真3）やアオサナエ（写真4）などが特に多く、これらを見ることのできるのは宍粟市の山や川の豊かさの象徴だと感じました。また、アオサナエは、昨年に改訂された兵庫県版レッドリストで要注目種にランクダウンしましたが、近年減少が著しい種として予断を許さない状況です。このような多様で豊かな自然環境を守っていくのも林業従事者の役割だと私は考えています。



（写真3）オジロサナエのヤゴ



（写真4）アオサナエ

私たちのような今後の林業を担っていく世代は、今までの林業をただ引き継いでいくのではなく、これからの日本の林業はどうあるべきなのかを、一人ひとりが真剣に考える必要があります。

その中でも2030年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標として知られるSDGsと森林・林業は切っても切り離せない存在です。森林空間や木材の利用、森林の持続可能な運営、木材の生産・加工・流通など、森林そのものが様々なSDGsに貢献しています。

また、仕事を通じて自ら森林の可能性を見出せるのも林業の魅力なのではないでしょうか。

私は1年生で、技術も知識もまだまだ至りませんが、この学び舎での時間を大切に過ごし、林業界で活躍できることを夢見て一歩一歩前に進んでいこうと思います。

専修学校  
**兵庫県立森林大学校**  
Hyogo Prefectural College of Forest Management

森林経営や森林林業に関わる  
人材を幅広く育成する学校  
【学校見学 随時受付中】

学校 HP

4 質の高い教育をみんなに

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

8 働きがいも経済成長も

11 住み続けられるまちづくりを

15 陸の豊かさも守ろう

宍粟市は「森林」を活用したまちの創造・SDGsに取り組みます